



Y.Maeda

THE MEGURO KINEN

第139回 農林水産省賞典 目黒記念 (GII)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 57,000,000円 23,000,000円 14,000,000円 8,600,000円 5,700,000円
付加賞 1,288,000円 368,000円 184,000円



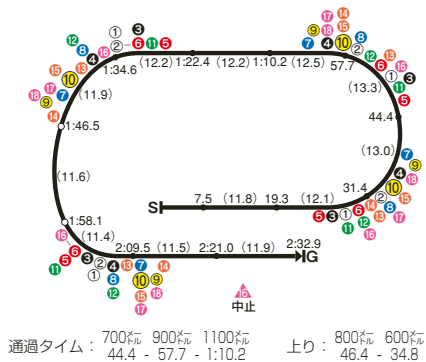
レース映像は
こちらでご覧
いただけます。

4歳以上、2024.5.25以降2025.5.25まで1回以上出走馬、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 ハンデキャップ

2025.6.1 東京 曇・良 芝2500m (国際) (特指)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑩	アドマイヤテラ	牡 4	57.5	武 豊	2:32.9	5-6-6-4	34.5	494(±0)	3.3①	友道康夫(栗東)	114
2	⑨	ホーエリート	牝 4	55	戸崎圭太	クビ	2-2-2-2	34.8	480(-2)	17.2⑥	田島俊明(美浦)	108
3	④	マイネルクリソール	牡 6	57	横山武史	3	3-3-9-9	34.8	468(-2)	22.0⑨	手塚貴久(美浦)	107
4	⑪	ディーブモンスター	牡 7	58	松山弘平	ハナ	15-16-17-15	34.3	468(-2)	49.1⑬	池江泰寿(栗東)	109
5	⑬	シルブロン	牡 7	57	D.レーン	アタマ	10-6-1-1	35.3	496(+6)	21.2⑧	稲垣幸雄(美浦)	
6	③	ヴェルミセル	牝 5	54	津村明秀	½	17-16-15-14	34.5	462(+4)	25.5⑪	吉村圭司(栗東)	
7	②	マテンロウレオ	牡 6	58.5	横山典弘	クビ	7-9-13-12	34.7	488(+10)	12.3④	昆 貴(栗東)	
8	⑦	マイネルカンパーナ	牡 5	56	丹内祐次	ハナ	1-1-4-4	35.3	418(-2)	13.2⑤	青木孝文(美浦)	
9	①	サンライズソレイユ	牡 4	56	坂井瑠星	1	15-14-13-12	34.9	524(±0)	7.0③	矢作芳人(栗東)	
10	⑤	アスターブジエ	牡 5	53	北村宏司	クビ	18-18-18-15	34.7	466(±0)	109.9⑯	中竹和也(栗東)	
11	⑧	スティンガーグラス	牡 4	56.5	C.ルメール	クビ	7-9-9-9	35.2	482(+6)	3.7②	木村哲也(美浦)	
12	⑫	ダンディズム	騾 9	56	佐々木大輔	1	12-11-9-9	35.3	468(-8)	37.6⑩	野中賢二(栗東)	
13	⑭	マイネルウィルトス	牡 9	57.5	A.シュルケ	2½	5-6-6-4	36.0	480(-4)	68.2⑭	宮 徹(栗東)	
14	⑥	ミクソロジー	牡 6	57	菅原明良	1	12-12-15-15	35.5	444(+4)	159.8⑰	辻野泰之(栗東)	
15	⑮	ニシノレヴナント	騾 5	55	池添謙一	1	3-3-2-2	36.5	488(±0)	22.4⑦	上原博之(美浦)	
16	⑬	マキシ	牡 5	56	岩田望来	アタマ	10-12-8-8	36.2	506(+6)	70.1⑮	辻野泰之(栗東)	
17	⑭	メイショウブレグ	牡 6	56	石橋 脩	ハナ	7-3-4-4	36.4	470(-6)	168.6⑱	本田 優(栗東)	
18	⑯	ハヤヤッコ	牡 9	59	M.ディー		12-14-12-18	486(+4)	486(+4)	18.1⑰	国枝 栄(美浦)	

単勝⑩330円(1¼) 複勝⑩160円(1¼) ⑨380円(6¼) ④600円(8¼) 枠連⑤-⑤4,060円(16¼)
馬連⑨-⑩3,560円(11¼) ワイド⑨-⑩1,010円(7¼) ⑨-⑩1,270円(10¼) ④-⑨3,620円(40¼)
馬単⑨-⑥6,160円(18¼) 3連複④-⑨⑩18,500円(60¼) 3連単⑩-⑨④79,580円(224¼)



通過タイム: 700m 900m 1100m 上り: 800m 600m
44.4 - 57.7 - 1:10.2 46.4 - 34.8

アラカルト

- ・武豊騎手はポップロックで制した07年に続く目黒記念4勝目。
JRA重賞は本年初勝利、通算364勝目。この勝利によりデビュー年の87年から39年連続JRA重賞制覇を達成(自身の持つJRA記録を更新)
- ・友道康夫調教師はヒートオンビートで制した23年に続く目黒記念3勝目。JRA重賞は本年5勝目、通算76勝目
- ・レイデオロ産駒はJRA重賞通算3勝目
- ・4歳馬の勝利は21年ウインキートスに続く通算86回目
- ・ハヤヤッコは競走中に疾病(右前浅屈腱不全断裂)を発症したため最後の直線コースで競走中止
- ・非抽選馬 1頭(エンドロール)

アドマイヤテラ *Admire Terra*

牡 芦毛 2021.2.7生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・近藤旬子氏 栗東・友道康夫厩舎
馬名意味・冠名+地球(ラテン語)

ウインドインハーヘアIRE系 F2-I

レイデオロ 鹿毛 2014	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	ラドラーダ 青鹿毛 2006	シンボリクリスエスUSA レディブロードUSA
	ハーツクライ 鹿毛 2001	サンデーサイレンスUSA アイリッシュダンス
アドマイヤミヤビ 芦毛 2014	レディスキッパー 芦毛 2007	クロフネUSA ライクザウインド

5代までのインブリード: Mr.Prospector S4×S5
ウインドインハーヘアIRE S4×M4

INTERVIEW

高見優也 厩舎長(ノーザンファーム空港)

格別な思いがあります

ダービーデーの重賞で1番人気を背負い、しかも武豊騎手が騎乗してくれたの勝利ですので格別な思いがあります。調整期間中にノーザンファームしがらきへ見に行く機会がありましたが、その度に馬がしっかりとってきた印象を受けました。ダービーでは育成馬のミュージアムマイルが敗れはしましたが、来年は育成馬でのダービーと目黒記念制覇を目指したいです。

T.Miki



菊花賞では大きな見せ場をつくって3着に食い込み、長距離適性の高さを示した本馬。その反動が尾を引き、今年の始動は遅れたものの、3勝クラスから格上挑戦した復帰戦の大阪・ハンブルクCを快勝、続く重賞も連勝し、すっかり上昇気流に乗った。武騎手はこの勝利で39年連続のJRA重賞制覇を達成。4歳の新星とレジェンドのコンビが、様々なドラマが交錯したダービーデーを締めくくった。

父レイデオロ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、首17戦7勝(日本ダービー^{G1}、天皇賞(秋)^{G1}、オールカマー^{GII}、神戸新聞杯^{GII}、ホープフルS^{GII}、ジャパンC^{G1} 2着、有馬記念^{G1} 2着)、最優秀3歳牡馬、最優秀4歳以上牡馬、20年から供用〔代表産駒〕アドマイヤテラ(本馬)、サンライズアース(阪神大賞典^{GII})、トロヴァトーレ(ダービー卿チャレンジトロフィー^{GIII}、ニューイヤーS・L)、エキサイトバイオ(ラジオNIKKEI賞^{GIII})、ミナデオロ(白百合S・L)、ウォーターガーベラ(チューリップ賞^{GII} 2着)、カラマティアノス(共同通信杯^{GIII} 2着)

母アドマイヤミヤビ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央6戦3勝(クイーンC^{GIII}、百日草特別、オークス^{G1} 3着)

アドマイヤラヴィ(19 牝父ロードカナロア)中央19戦3勝(西部スポニチ賞)

アドマイヤソラ(20 牝父ロードカナロア)中央12戦1勝 ④

アドマイヤテラ 本馬(21 牝父レイデオロ)中央9戦5勝(目黒記念^{GII}、大阪
―ハンブルクC^{GII}、茶臼山高原特別、菊花賞^{G1} 3着)

獲得総賞金185,089,000円

アドマイヤフウビ(22 牝父ロードカナロア)

アドマイヤシュラ(23 牝父エフィファネア)

(24 牝父モーリス)

(25 牝父イクイノックス)

祖母レディスキッパー

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央0勝

グランアルマダ(12 牝父ダイワメジャー)中央5勝(日本海S、伊勢志摩サミッ

―ト開催記念、忍路ケ浜特別、メルボルントロフィー)、地方0勝

アドマイヤミヤビ(14 前出)

クイーンユニバース(16 牝父ヴィクトワールピサ)中央2勝

曾祖母ライクザウインド

北海道早来町 ノーザンファーム生産 持込 中央0勝。21年用途変更

レディスキッパー(07 前出)

ラフィエスタ(08 牝父スペシャルウィーク)不出走、**サ―マルウインド**(信越

―S・L、春興S、春雷S・L2着、朱鷺S・L2着)の母

ハワイアンウインド(09 牝父キングカメハメハ)中央3勝(夕月特別、国東特
―別)、**ルフトシュトローム**(ニュージーランドトロフィー^{GII})の母

アサヒ(19 牝父カレンブラックヒル)中央2勝(奥多摩S、東京スポーツ杯2
歳S^{GII} 2着、洛陽S・L3着)④

熾烈な追い比べを制し初の勲章を獲得

ダービーデーの最終レースに行われるようになった2006年以降の目黒記念(11年のみ前日に施行)では、ダービー馬の産駒がこれまで6勝、なかでもキングカメハメハ産駒は5勝と圧倒的な良績を残している。今年、特別な1日を締めくくったのはその孫にあたるアドマイヤテラ。遅咲きの素質を着々と開花させてきたレイデオロ産駒の4歳馬が、1番人気の支持に応えて初の勲章を獲得し、さらなる飛躍への一歩を踏み出した。

ダービーと同様、確たる逃げ馬が見当たらなかったレースは、押し出される形で先頭に立ったマイネルカンパーナが主導権を握り、遅い流れ、一団の

残り1000m地点から11秒台のラツプが刻まれたレースは、一団の隊列に変化はないまま直線の攻防へ。坂下では押し切りをはかるシルブロンに2番手のホーエリートが並びかけ、2頭

が先頭を争う形勢となる。とはいえず、その外へ持ち出した武騎手が加速を促すと、アドマイヤテラも力強い末脚を発揮。最後まで懸命の抵抗を続けたホーエリートを熾烈な追い比べの末にねじ伏せた。

菊花賞では大きな見せ場をつくって3着に食い込み、長距離適性の高さを示した本馬。その反動が尾を引き、今年の始動は遅れたものの、3勝クラスから格上挑戦した復帰戦の大阪・ハンブルクCを快勝、続く重賞も連勝し、すっかり上昇気流に乗った。武騎手はこの勝利で39年連続のJRA重賞制覇を達成。4歳の新星とレジェンドのコンビが、様々なドラマが交錯したダービーデーを締めくくった。